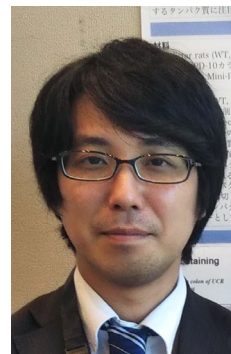


## 2019 年度学術推進プロジェクト

### 研究まとめと感想

京都橘大学健康科学部臨床検査学科 岡田光貴



【研究まとめ】潰瘍性大腸炎(UC)とクローン病の総称である炎症性腸疾患(IBD)の、日本における患者数は年々増え続け、問題視されております。IBDは完治することなく寛解と再燃を繰り返すことから、定期的な検査による重症度の判断が必要です。現在、大腸内視鏡や便中カルプロテクチン測定などによる重症度判定が行われますが、これらはなかなか頻繁に行えるものではありません。そこで、我々は、血液中でIBDの病態に応じた変動を示すバイオマーカーを樹立することを目指し、日々研究を行なっております。まず我々は、IBD患者の血中カルプロテクチンの変動を精査しましたが、これとIBDの重症度との相関性は、優れているとは言い難いものでした。そこで、質量分析法により血中変動因子を詳細に解析し、補体C3や $\alpha_2$ -マクログロブリンの方が、IBDの病態を反映した、有用なバイオマーカーである可能性を示しました。さらに、現在はUCモデルラットを用いた動物実験も並行して実施しております。UCモデルラットの血清および大腸組織において、Ⅲ型炭酸脱水酵素が病態に応じた変動を示すことに注目し、この機能的役割やUCとの関係性を精査しております。我々の研究成果がIBDの重症度診断に貢献できるように、引き続き研究活動に勤しむ所存です。

【感想】2019年度の学術推進プロジェクト研究課題に選出頂き、心より感謝致します。臨床検査に関する研究を対象とした助成金の募集は少ないため、当時、自身の研究テーマが選出されたことは大変ありがたく、嬉しい気持ちでした。そして、本研究助成により、臨床研究のみならず基礎研究にも取り組むことが可能となり、両方で成果を挙げることができました。我々の探求はこれからも続きますが、本研究が発展するための契機となりました学術推進プロジェクト事業には厚く御礼申し上げます。今後も得られた成果は、日本臨床検査医学会の学術集会を通じて積極的に報告する所存です。皆様には引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。